

2014年11月29日(土) @アクロス福岡
地方共助社会づくり懇談会 in 福岡

【パネルディスカッション】

福岡からはじめよう社会的投資の促進
～共助社会における**志金**の流れを考える

寄付・出資・融資～

公益財団法人あいちコミュニティ財団
コミュニティ・ユース・バンクmomo

木村真樹

masaki@kimura-office.net

地域内“志金”循環モデル構想

市民のお金を地域で循環させる
セーフティネット、地域再生

地域への再投資

NPO 等

委託・補助

助成・活動支援

融資・活動支援

融資

行政

市民コミュニティ財団

NPO バンク

地域金融機関

連携

連携

連携

納税

会費・寄付

寄付(税制優遇)

出資

事業収入

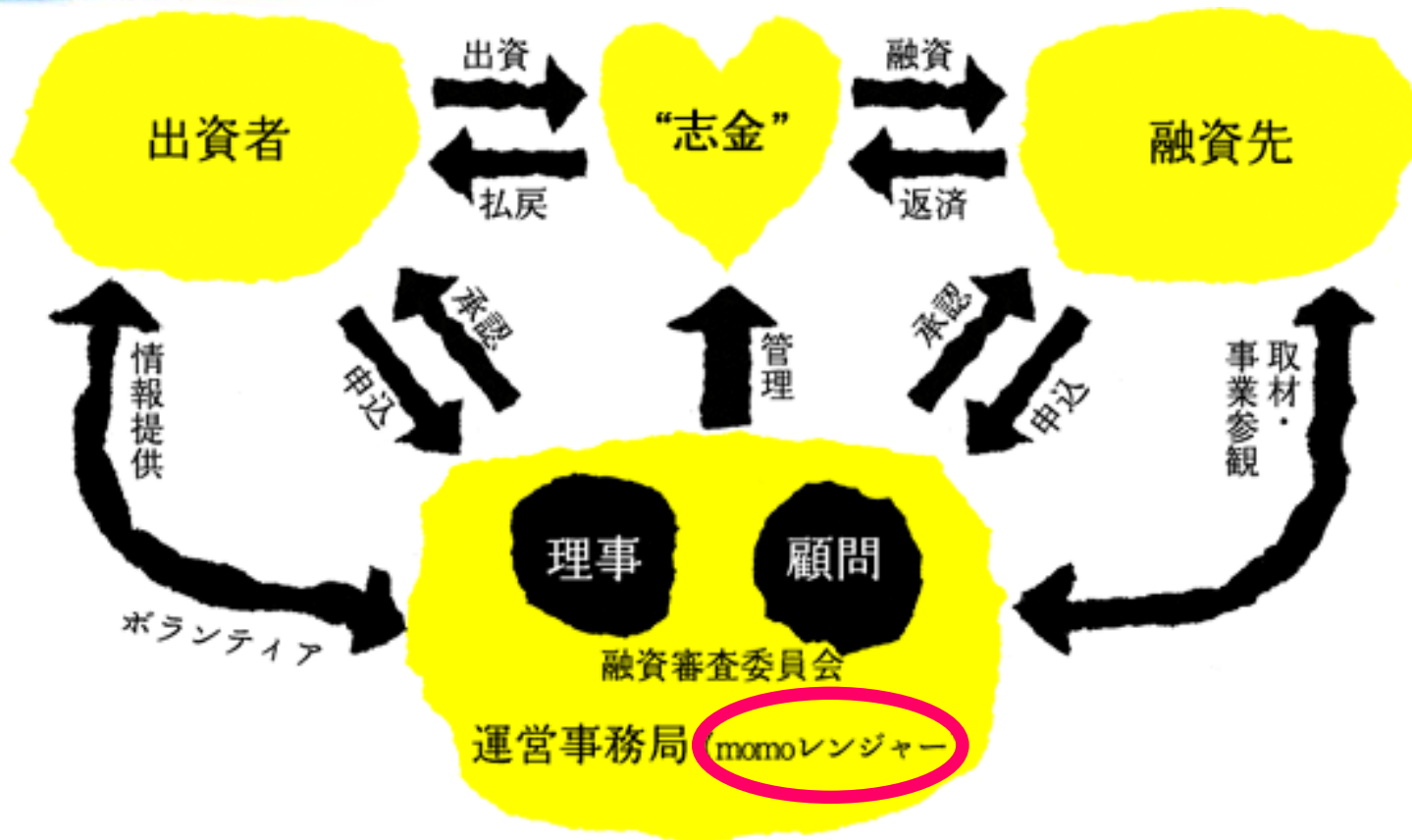
預金

市民・地域企業

参考:「名古屋市市民活動促進基本方針」(2011年12月) / 図 資金が地域で回る仕組みのイメージ (例: 市民ファンドの場合)

年間数千万円の資金支援 & 350名弱による伴走支援

「NPOバンク」という選択肢



momoの出資&融資状況 (14年11月11日現在)

【出資者】 525名 【出資総額】 5,289万円

【融資総額】 12,634万円/52件 (貸し倒れなし)

NPOの課題解決×金融機関の人材育成

「せとしんプロボノプロジェクト」 のあゆみ

<http://blog.canpan.info/setoshin-probono/>

瀬戸信用金庫の職員が
NPO活動の地域や [redacted]
社会にもたらす価値を定量化する

「とうしんプロボノプロジェクト」 のあゆみ

<http://blog.canpan.info/toshin-probono/>

東濃信用金庫の職員が
NPO活動の地域や [redacted]
社会にもたらす価値を定量化する

<< 2014年06月 >>

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

「とうしんプロボノプロジェクト」は、東濃信用金庫（岐阜県多治見市）の職員が、仕事で培ったスキルや経験を生かす「プロボノ」(*1)として勤務時間外に参画し、NPOを半年間応援する取り組みです。

東濃信用金庫職員のみなさんが1つのNPOにつき5~10名のチームをつくり、月1回のミーティング等を通して、NPOが過去の活動で地域や社会にもたらした定性的な価値を、貨幣価値に換算して定量的に示す「SROI」(*2)を測定する「とうしんSROI測定プログラム」(*3)を実施しています。

検索

検索語句

検索

タグクラウド

最新記事

平成26年6月2日
株式会社日本政策金融公庫
名古屋支店国民生活事業

全国初、日本政策金融公庫がNPOバンクと協調融資でソーシャルビジネスの支援を実施

- 日本政策金融公庫（略称：日本公庫）国民生活事業は、NPOバンクのコミュニティ・ユース・バンク momo（本部：愛知県名古屋市 代表理事：木村真樹）と協調して、社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス事業者に対し融資を実行しました。
- 日本公庫が、一般市民から出資金を集めて運営されている NPOバンクと連携し、協調して融資を実行するのは全国初となります。
- 今般融資を実行した先は岐阜県内の会社で、森林の健全な育成のために伐採された間伐材を原料とした割り箸製造を行うと共に、その際に発生するオガクズを堆肥の原料として利用することで自然のものを全て活用し、廃棄物を発生させないゼロエミッション型の事業を展

「ソーシャルビジネスサポートあいち」も発足

特徴(1) あいちの課題を「定量化」

あいち「見える化」ウェブ

あいちの地域課題を知る。
その解決に挑むNPOがわかる。



本サイトでは、公益財団法人あいちコミュニティ財団の助成先が解決に挑んでいる「地域課題」と「その解決策」を紹介しています。

あいち「見える化」ウェブとは？

あいちの地域課題を知る

解決に挑むNPOを見つける

解決策に参加する

お問い合わせ

近頃のあいちの課題

▶名古屋市に住む児童・生徒の約1,000人に2名が重度・重複障がい児

名古屋市に住む児童・生徒の

約1,000人に2名が

重度・重複障がい児

自分で歩いたり、座ったりすることが難しく、思うように動くことができない子どもたちがいます。また、食事を自分で食べ

カテゴリー別あいちの課題

子ども・教育



障がい者



お年寄り

多文化共生



まちづくり



働き方

活動ではなく「調査」助成



あいちの課題

助成先募集要項2014

〔募集期間〕2014.4.7(月) - 2014.5.23(金) 18:00必着

「あいちの課題深掘りファンド」とは、市民公益活動団体(NPO)が解決に挑む地域や社会の課題を深く追求する(深掘りする)ことで、その課題の緊急性や重要性を巻き込みたい対象者に伝えられるようになることを目指して設置しました。あいちコミュニティ財団と助成先のNPOが一緒になって「解決に挑む地域の課題」と「解決策の先行事例」を可視化するプログラムです。

愛知県は2013年度、リニア中央新幹線の開業後の2030年頃を展望し、2020年までに取り組むべき重点的な戦略を明らかにするとともに、県内各地域の取組方向を示す新しい地域づくりビジョン(あいちビジョン2020)を策定しました。本ファンドでも2020年~2030年の愛知県を見据え、重点的に取り組むべき課題を追求していきます。

本取り組みのプロセスを通して、課題を可視化し、地域や社会と共有することで、解決の糸口を探りたい助成先を募集します。ふるってご応募ください。



本プログラムには以下の2つのコースがあります。

モグラコース
>>2団体

1団体につき4名程度の公務員(愛知県在勤)が、ボランティアで課題の深掘りをサポートするコース
「モグラ」は、本ファンドの助成先が挑む課題の深掘りをサポートする公務員によるボランティアスタッフの呼称です。

スラザーコース
>>1団体

1団体につき4名程度のブラザー工業従業員が、ボランティアで課題の深掘りをサポートするコース

なお、本プログラムは地域問題研究所の協力を得て、団体につき1~2名の研究スタッフがアドバイザーとしてボランティアで参画します。

【14年度助成事業】

- (1) 愛知の視覚障がい者の職業実態調査事業
- (2) 外国にルーツのある子ども(外国人児童生徒)の発達障害に関する調査事業
- (3) 高齢者の暮らしのニーズとリズムの深掘り調査事業



あいちコミュニティ財団
年次報告書

「あいちの課題深掘り
BOOK」2013で特集
(14年11月1日発行)

特徴(2) 目的は「自主財源額の増加」

～あいちの地域課題を知り、その解決に挑む NPO への寄付を促すプログラム～



事業指定プログラム ミエルカ 2014

助成先(事業指定寄付先)募集要項

事業指定プログラム「ミエルカ」とは？

事業指定プログラムとは、あいちコミュニティ財団(以下、当財団)と参加する市民公開特許団体(NPO)と一緒に寄付を集める“志金”調達サポートプログラムです。「地域課題は何があるか?」「課題は何か?」を広く訴え、その解決策(=参加 NPO が行う取り組み)への寄付金を当財団経由で集め、集めた寄付金から運営費を除いた額を助成金として交付します。

参加 NPO は、寄付を集める計画を当財団とともに考え、Web サイトやカタログなど、寄付を集めるためのツールを整備します。また、参加 NPO は、当財団が用意する専用口座やクレジットカードの決済機能を活用することができます。

寄付募集を通して、参加 NPO が解決に挑む地域や社会の課題を「見える化」し、その認知度を高めることで、NPO に必要な金の流れをつくります。また、そのプロセスを通して参加 NPO の組織基盤強化にも取り組み、NPO の信頼性を高めることで、安心できる地域の未来を創造することを目指します。

本プログラムには、以下の3つのコースがあります。

「フレンドレイザー」コース (最大6団体)

1団体につき1名程度のボランティアスタッフが「フレンドレイザー」がNPOの“志金”調達をサポートするコースです。当財団の専用口座(口座名義:あいちコミュニティ財団)に集めた寄付金をNPOの専用口座(口座名義:当NPO)に振り込みます。

「住友理工」コース (1団体)

1団体につき1名程度のボランティアスタッフが「アロバノ」が「深刻化する子ども」の課題解決に取り組むNPOの“志金”調達をサポートするコースです。アロバノは、住友銀行の大学企業連携プログラムを事業として、NPOに専用口座(口座名義:住友銀行)を準備します。

「独自調達」コース (最大3団体)

参加団体の仕組み(Webサイトやカタログ、クレジットカードの決済機能、印刷機など)を活用し、独自に“志金”を調達するコースです。当財団の専用口座(口座名義:あいちコミュニティ財団)に集めた寄付金をNPOの専用口座(口座名義:当NPO)に振り込みます。

	所属セクター			個人属性				
	NPO	企業	行政	男	女	20-40才	41-60才	60才-
1	○			○		○		
2		○			○			○
3	○				○	○		
4	○				○	○		
5	○			○			○	
6		○		○		○		
7	○				○	○		
8		○		○				○
9		○		○			○	
10	○			○		○		
11		○			○	○		
12	○				○	○		
13		○		○			○	
14		○		○				○
15	○			○		○		
16			○	○			○	
17		○			○		○	
18		○		○			○	
19		○			○		○	
20				○		○		

特徴(3)「ボランティア」による伴走支援

リニューアルした『あいち・なごや子どもとつくる基金』は、愛知県内の「深刻化する子どもの問題解決に当事者が挑む事業」を3年継続助成（原則）で応援します。

前半（2015年4月～2016年9月）は、「解決に挑む地域の課題」と「解決策の先行事例」を調査（深掘り）し、可視化された課題&先行事例をもとに、「解決策（助成事業）」の検討や実験、ブラッシュアップを行います。

本基金は、地域や社会の課題に気づき、その解決に挑もうとする人たちが、解決に挑み続けられる組織基盤を3年間で構築することを目指しています。

後半（2016年10月～2018年3月）は、事業指定プログラム「ミエルカ」2016を通して課題解決に必要な「お金」と「人」を集め、解決策に挑みます。

Hop

〔助成事業期間〕
2014年4月1日～6月30日

「あいちの課題深掘りファンド」2015年度助成先とともに、「解決に挑む地域の課題」と「解決策の先行事例」を調査（深掘り）します。

助成先が受けられるサポート

- 〔集合研修〕の実施
講師は石塚智徳さん（南山大学ビジネス研究科ビジネス専攻（南山ビジネススクール）教授）です。なお、本研修は、本ファンドへの申請団体であれば、採択の可否にかかわらず、参加することができます（助成先のみ無料）。
- 愛知県在勤の公務員（モグラ）等、「ボランティアスタッフ」の派遣（1団体あたり4名程度を想定）
- 「アドバイザー」のサポート
一般社団法人地域問題研究所の研究スタッフがアドバイザーとして参画し、事業の進捗確認や、必要に応じたアドバイスを行う予定です。
- 「あいちの課題深掘りBOOK」2014への掲載
「あいちの課題深掘りBOOK」は、当財団の助成先が解決に挑む地域課題等を紹介した、当財団の年次報告書です。本助成事業で深掘りした地域課題は、1団体あたり4ページの特集として掲載します。
発行予定：2015年8月
- あいち「見える化」ウェブへの掲載 >><http://aichi-community.jp/mieruka/>
※愛知県内のさまざまな地域課題を知り、その解決に挑むNPOへの寄与を促すWebサイトです。
- 「成果報告会」の開催
「あいちの課題深掘りBOOK」2014の発行後、本基金と「あいちの課題深掘りファンド」の2015年度助成先の中から1団体の課題をテーマに「成果報告会」を開催し、マルチステークホルダーでその解決策を検討します。

助成金額

- 1件あたりの上限は10万円（申請額は万円単位、端数切り捨て）
申請いただいた調査・研究に関する事業の執行に関わるものであれば、助成金の使途に制限はありません。
- 助成金交付時期と方法
助成金は2015年4月末までにご指定の口座へ振り込みます。なお、事業終了後の精算額が助成額より下回った場合、差額を返還していただきます。

助成先が実施すること

- 2015年4月5日（日）に開催する「集合研修」に参加すること
- 「モグラ」等のボランティアスタッフとともに、地域課題を深く追求し（深掘りし）、「あいちの課題深掘りBOOK」2014にまとめること
- 定期的（月1回程度）に活動状況等をWebサイトやブログに掲載し、SNSで拡散すること*
※当財団のWebサイトに、各団体のブログ等を見ることが出来る専用ページを作成します。
- 事業実施期間終了後1ヶ月以内に、助成事業における「成果報告書」を当財団へ提出すること
- 本助成事業に取り組んだボランティアスタッフ等との「振り返り会」に参加すること
開催予定：2015年8月
- 「あいちの課題深掘りBOOK」2014発行後に開催する「成果報告会」に参加すること
開催予定：2015年9月

Step

〔助成事業期間〕
2016年1月1日～6月30日

可視化された課題&先行事例をもとに、「解決策（助成事業）」の検討や実験、ブラッシュアップを行います。

助成先が受けられるサポート

- 〔「仮想理事会（解決策検討会議）」の実施（1回2時間を想定／2015年10月～12月）〕
当財団役員や評議員がその場だけの仮想理事となり、解決策について検討します。
- 〔「助成事業」の実験（2016年1月～6月）〕
仮想理事会で検討した解決策（助成事業）に半年間取り組みます。
- 〔「仮想理事会（解決策ブラッシュアップ会議）」の実施（1回2時間を想定／2016年7月～9月）〕
半年間の解決策の実験後、当財団役員や評議員が再びその場だけの仮想理事となり、解決策をさらにブラッシュアップします。

助成金額

- 1件あたりの上限は50万円*（申請額は万円単位、端数切り捨て）
申請いただいた事業の執行に関わるものであれば、助成金の使途に制限はありません。
※2015年11月30日までに集まった寄付総額に応じて助成します。
- 助成金交付時期と方法
助成金は2016年1月末までにご指定の口座へ振り込みます。なお、事業終了後の精算額が助成額より下回った場合、差額を返還していただきます。

助成金額の決定方法

- 2015年12月に当財団が設置する選考委員会がヒアリングを実施します。
- ヒアリングでは、「助成事業申請書」〔CANPANで開示されている情報〕「インターネットなどで公開されている情報」なども確認した上で、選考委員の合議により助成金額を決定します。
※選考委員の判断により、助成額が申請額から変更（増減額）されることもあります。

助成先が実施すること

- 2015年12月11日（金）までに、助成事業申請書を提出すること
- 定期的（月1回程度）に活動状況等をWebサイトやブログに掲載し、SNSで拡散すること*
※当財団のWebサイトに、各団体のブログ等を見ることが出来る専用ページを作成します。
- 2016年8月31日（水）までに解決策をブラッシュアップし、事業指定プログラム「ミエルカ」2016の助成事業申請書を当財団へ提出すること



Jump

〔寄付募集への挑戦期間〕
2016年10月1日～2017年3月31日
〔助成事業実施期間〕
2017年4月1日～2018年3月31日

事業指定プログラム「ミエルカ」2016を通して、課題解決に必要な「お金」と「人」を集め、解決策に挑みます。

助成先が受けられるサポート

- 寄付の受付・決済
- 広報やPRのサポート
- 「集合研修」の実施
- 「フレンドレイザー」の派遣（1団体あたり4名程度を想定）

申請額

申請額（助成限度額）に定めはありません。補助率のような制限もなく、実施事業にかかる費用の100%を申請可能です。また、申請いただいた事業の執行に関わるものであれば助成金の使途に制限はありません。助成される金額は、実際に集まった寄付金額から当財団の運営費を引いたものになります。
※寄付募集額は、申請額に当財団の運営費等を加えた額となります。
※助成金は寄付募集期間後、集まった寄付金から当財団運営費を除いた金額を助成します。

選考について

- 当財団の事務局スタッフとボランティアスタッフ「フレンドレイザー」が、「一次選考」として書類選考を行います。「最終選考」では、当財団が設置する選考委員会でヒアリング選考を行い、結果をメールまたは文書で通知します。
※本プログラムは3年間の継続助成を前提としています。本選考の結果、「ジャンプ（寄付募集への挑戦期間）」に集まることもあります。
- 申請〆切後、一次（書類）選考前に事務局で申請書を確認し、2016年9月上旬までに事務局スタッフの感想を各申請団体へフィードバックします。このフィードバックを受けて、申請書を再提出していただくことも可能です。
- 選考では「助成事業申請書」〔CANPANで開示されている情報〕「インターネットなどで公開されている情報」などを確認した上で、選考基準をもとに、選考委員の合議により採択の可否を決定します。

助成先が実施すること

- 集合研修やイベントに参加すること
- 定期的（週1回程度）に活動状況や寄付総額等をWebサイトやブログに掲載し、SNSで拡散すること
- 寄付のお願いやお礼状を作成すること
- 寄付募集期間終了後3週間以内に、「宣言書」「助成金交付申請書」「寄付募集に関するアンケート」「助成事業計画書」を当財団へ提出すること
- 事業実施期間終了後1ヶ月以内に、助成対象事業全体に関する「成果報告書」を当財団へ提出すること
- 成果報告書提出後に開催する「成果報告会」に参加し、報告すること

